

## 浜の活力再生プラン

### 1 地域水産業再生委員会

組織名	岸和田地蔵浜地区地域水産業再生委員会
代表者名	音 揃 政 啓

再生委員会の構成員	岸和田市漁業協同組合、岸和田市、大阪府
オブザーバー	大阪府漁業協同組合連合会

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	地域の範囲:大阪府岸和田市 漁業の種類: 底びき網漁業(25隻)48名。船びき網漁業5統 22名。アナゴ籠漁業11名。合計対象者数延べ81名。(船びき網漁業者は、季節により、底びき網漁業に転換するため延べ人数とする。)
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>岸和田市地蔵浜地区は、大阪府の中部に位置し、大阪湾を漁場とし、底びき網漁、船びき網漁、あなご籠漁を営んでいる。</p> <p>主要な漁獲物としては、底びき網漁による丸アジ、スズキ、チヌがあり、脂のりがいいと市場での定評がある。また、籠漁により漁獲されるアナゴは、脂ののった上品な味わいが特徴の「泉州アナゴ」として、京阪神の料亭などへ出荷され一定の評価を受けている。さらに、船びき網漁のイカナゴ、イワシシラスは、年間200トンの漁獲を誇り、船びき網漁業者の生活を安定的に支えてきた。しかし、近年の温暖化や埋立て工事による土壌の悪化、潮流の変化等の影響で漁場環境が悪化し漁獲量は減少し続けている。また、消費者の魚離れによる需要の低下から、魚価の低迷が進行しており、これに加えて燃料費の高騰は、漁業者の所得の低下や後継者不足に拍車をかけている。</p> <p>現在の出荷体制としては、底びき網漁業で漁獲された鮮魚は、漁協が100%出資し、運営している魚市場でセリにかけ出荷され、あなご籠漁のアナゴやタコ、カニは、漁業者が個別に持つ得意先へ出荷している。また、船びき網漁は、平成26年度より近隣の鯛巾着網漁協の共販施設で入札販売し、価格の安定化を目指しているところである。</p>
---

#### (2) その他の関連する現状等

<p>当地域では、地産地消と魚食推進のため、漁協青年部が中心となり、地元小学校児童の漁業体験を実施している。体験で漁獲した魚を調理・試食することで児童や保護者に地元の魚の美味しさを紹介するとともに、漁業に対する関心を深め魚食推進している。今後は、近隣漁協との合同イベントでも地蔵浜地区ならではの底びき網漁の魚を加工販売するとともに、販魚種の増加に必要なものとして新たに浮上してきた課題である「季節によって魚種の構成が大きく変動する水揚物を限りある施人材で効率的かつ衛生的に加工する方法等」について検討し、併せて地元の魚を紹介する機会を増やしていく。</p> <p>また、一方では、甚大な被害が予想される東南海・南海地震に備え、老朽化が進む漁港や漁具倉庫の耐震化や津波対策を進む必要がある。</p>
--

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

大阪湾の環境は、温暖化や埋め立て工事による土壌の悪化、潮流の変化等により急速に悪化してきた。それは、魚種や漁獲量の減少に著しく表れている。しかしながら、少ない資源を生かし、漁業者の生活水準を上げるためには、魚価の安定化や魚離れに歯止めをかけるための工夫が必要となる。漁獲物をそのまま流通させるのではなく、開きやフィレに加工して直売する。また、JAいずみの農協と連携し、道の駅を利用して定期的に物産展を開催する等、農産物と一体化した食育を進め、地元の魚を販売する場として定着させ、漁業者の所得を向上させる。

##### ○漁業収入向上のための取組

- ① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入
- ② 新たな加工品の効率的な製造方法の確立及び販売
- ③ 新規就業者の育成
- ④ ウエルエージング岸和田推進協議会の推進する魚食レシピの活用
- ⑤ 地元小学校への魚食普及
- ⑥ 浜の機能再生広域プランへの参画

##### ○漁業コスト削減のための取組

- ① 船底清掃等の省燃油活動
- ② 省エネ機器への機関換装
- ③ 共同運搬船の活用による運送経費の削減

#### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法及び大阪府の調整規則による規制のほか、漁業者間で自ら約定する自主的資源管理を進め、漁業資源の維持・安定化に努める。加えて海域周辺の清掃作業等への積極的な参加ならびに実施による環境改善にも取り組み、漁業資源の増殖化に努める。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や業調整委員会指示等について記載する。

#### (3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標ともに記載)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入 船びき網漁業者は、漁獲したイカナゴ・シラスについて、平成26年度から大阪府鰯巾着網漁協が実施している競争入札に出荷し、従来の加工業者との相対販売から競り場を通しての入札販売に移行することで単価の向上を図る。</p> <p>② 新たな加工品の販売 底びき網漁業者は、漁協と連携し、丸アジ、スズキ、チヌ、タチウオ等の鮮魚について、漁協の加工施設を活用し、新たに真空パック包装での「開き」「フィレ」、「みそ漬け」等に加工し、JAいずみの道の駅「愛彩ランド」や取引先近隣スーパーに出荷する。 さらに、平成27年に愛彩ランドの鮮魚コーナーが拡張されることに伴い、上記加工品に加え、あなご籠漁業者が漁獲、開き加工したものも販売する。</p> <p>③ 浜の機能再生広域プランに賛同、参画し、各漁協との連携を保ちながら、漁協独自の魚のブランド化を目指すため、活〆や神経抜き等の技術講習会を開き、関東への出荷を図る。</p> <p>④ 新規就業者の育成 漁協は、底びき網漁業者と協力し、平成26年度それぞれ新規採用した乗組員に対し、漁業の未経験者が将来安定した収入を得られるよう、補助事業も活用し、漁業技術講習会を開き、長く漁業に携わり、安定した生活が営めるよう人材を育成する。</p> <p>⑤ ウエルエージング岸和田推進協議会の推進する魚食レシピの活用 岸和田市保健福祉部を事務局とし、歯科医師会、商工会議所、農協、市民協議会等機関の他、岸和田市食生活改善推進協議会など食に携わる団体が構成され、健康づくりと食育推進を目的として設立された「ウエルエージング岸和田推進協議会」には、漁協も参画している。地域の健康まつり向けに、これまで考案した魚食レシピについて、市内の保健センターや市役所健康推進課の窓口等で配布してもらうことにより、市民に魚食レシピが手渡る機会を増やし、もって魚食普及、魚介類の消費向上を目指す。また、継続的にレシピの考案に取り組みレシピを増やす。この際、漁協が漁業者より魚を買い上げ、レシピを考案するウエルエージング推進協議会に原材料の無償提供を行うことで、地魚を用いた魚食レシピの増加を目指す。</p> <p>⑤ 地元小学校への魚食普及 漁協青年部が主体となり、毎年行っている地元小学校5年生児童の底びき網の漁業体験を通じて、地元の魚を実際に漁獲することで、漁業に対する関心を高め、調理、試食により魚食の普及を進める。</p> <p>以上の取組みにより、初年度は、全体で1%の収入向上を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 船底清掃等の省燃油活動 省燃油活動推進事業を活用して、全漁業者は、年2回の船底清掃の実施を徹底し、燃油消費量の削減を図る。</p> <p>② 省エネ機器への機関換装 一部漁業者の漁船機関を省エネ機器へ換装を行い、燃油消費量の削減を図る。</p> <p>③ 共同運搬船の活用による運送経費の削減 船びき網漁業者は、平成26年度に大阪府巾着網漁協に新設されたセリへの参入により、同漁協が運用する運搬船を活用することで漁場から自船での運搬に係る燃油消費量の削減を図る。</p> <p>以上の取組により、基準年に対し1%の燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 省エネ機器導入推進事業(漁業コストの削減) 新規就業者確保支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p>

2年目(平成28年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入 船びき網漁業者は、漁獲したイカナゴ・シラスについて、大阪府鰯巾着網漁協が実施している競争入札への出荷を継続し単価の向上を図る。</p> <p>② 新たな加工品の販売 丸アジやタチウオ、チヌだけでなく、季節ごと漁獲の多い魚を旬の食材として加工し、魚種を増やすことを検討する。また、販売量、売れ筋等販促会議で検討する。</p> <p>③ 魚市場出荷場の整備 漁協が保有する魚市場の経年劣化した出荷場を整備し、流通促進を図る。</p> <p>④ 大阪・泉州広域水産業再生委員会に参画し、鮮魚及び加工品の出荷規格や品質管理基準を設け底びきの魚のブランド化を進める。</p> <p>⑤ 新規就業者の育成 1年目の効果を活かし、ハローワークで人材募集し、補助事業も活用して長く漁業に携わり、安定した生活が営めるよう育成する。</p> <p>⑥ ウエルエージング岸和田推進協議会の推進する魚食レシピの活用 魚食レシピを増やし、前年までの市内の保健センターや市役所健康推進課の窓口等での配布に加え、イワシの日のイベントでの配布や愛彩ランドの魚売り場に置いておくことにより、市民に魚食レシピが手渡る機会を増やし、もって魚食普及、魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑦ 地元小学校への魚食普及。 漁協青年部が主体となって地元の小学校を対象に実施している漁業体験を、地域全体に拡大していくことを検討する、地元の魚を調理、試食することで美味しさを知ってもらい、保護者にも理解を深め、魚食推進する。 以上の取組により、前年より1%収入を向上させる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 船底清掃等の省燃油活動 省燃油活動推進事業を活用し、全漁業者は、引き続き年2回の船底清掃の実施を徹底し燃油消費量の削減を図る。</p> <p>② 競争力強化型機器の導入 一部漁業者の機関換装を行い、生産性の向上と燃油費の削減を図る。</p> <p>③ 競争力強化漁船の導入 中核的漁業者の収益向上を図るため強化漁船を導入する。</p> <p>④ 共同運搬船の活用による運送経費の削減 船びき網漁業者は、引き続き平成26年度に大阪府巾着網漁協に新設されたセリへの参入により、同漁協が運用する運搬船を活用することで漁場から自船での運搬に係る燃油消費量の削減を図る。 以上の取組により、基準年に対し1%の燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 新規就業者確保支援事業 競争力強化機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入</p> <p>船びき網漁業者は、漁獲したイカナゴ・シラスについて、大阪府鰯巾着網漁協が実施している競争入札への出荷を継続し単価の向上を図る。</p> <p>② 新たな加工品の販売</p> <p>JAIずみの道の駅愛彩ランドでの鮮魚加工品の売り上げを伸ばすため底びき網漁業者がローテーションを組み、定期的に調理実演等イベントを開催して店頭販売する。試食や魚食レシピの配布も行い販売促進する。</p> <p>③ 岸和田の漁獲魚種と似通った魚種を扱う岡山県漁連の加工施設を視察し、タチウオやクロダイ、スズキなど季節により漁獲量が増大する魚を効率的にフィレにして真空パックする方法を習得する。また、組合員の労働時間の短縮化や作業能率を上げるため、現在の朝セリから昼セリに移行する。そのため明石浦漁協の昼セリを見学し、水揚げから流通までの段階や販路の拡大方法等の講習を受けるとともに、当組合としての勉強会を開催する。また、近隣漁協と協議し魚種の増加を図り、仲卸業者を増やして魚価の安定化を図る。</p> <p>④ 新規就業者の育成</p> <p>漁協は、後継者不足の底びき網漁業者と連携をとり、ハローワークで募集した人材を補助事業も活用して育成する。</p> <p>⑤ ウエルエージング岸和田推進協議会の魚食レシピの活用</p> <p>魚食レシピについて、前年までの配布等に加え、市の健康まつりや、年1回開催される健康と食に関する定期公演会において、参加した市民に魚食レシピの配布を行い市民に魚食レシピが手渡る機会を更に増やし、もって魚食普及、魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑥ 地元小学校への魚食普及。</p> <p>漁協のホームページを作成し、漁協青年部が主体となって実施している漁業体験を紹介する。漁業体験の地域を拡大する。</p> <p>以上の取組により、前年よりさらに1%収入を向上させる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 船底清掃等の省燃油活動</p> <p>省燃油活動推進事業を活用し、全漁業者は、引き続き年2回の船底清掃の実施を徹底し燃油消費量の削減を図る。</p> <p>② 競争力強化型機器の導入</p> <p>一部漁業者の機関換装を行い、生産性の向上と燃油費の削減を図る。</p> <p>③ 共同運搬船の活用による運送経費の削減</p> <p>船びき網漁業者は、引き続き平成26年度に大阪府巾着網漁協に新設されたセリへの参入により、同漁協が運用する運搬船を活用することで漁場から自船での運搬に係る燃油消費量の削減を図る。</p> <p>以上の取組により、基準年に対し1%の燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 競争力強化機器等導入緊急対策事業 浜の活力再生プラン推進事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入 船びき網漁業者は、漁獲したイカナゴ・シラスについて、大阪府鰯巾着網漁協が実施している競争入札への出荷を継続し単価の向上を図る。</p> <p>② 新たな加工品の販売 JAいずみの道の駅愛彩ランドでの鮮魚加工品の売り上げを伸ばすため底びき網漁業者がローテーションを組み、定期的に調理実演等のイベントを開催して店頭販売する。試食や魚食レシピの配布も行い販売促進する。</p> <p>③ 加工品のアイテムを増やすため、定期的に組合員の勉強会を開催し、試作品の検討をする。</p> <p>④ シーフードショーに出展し、異業種企業とマッチングする為、底びき網のエビジャコやネプトの乾燥品を使って、郷土料理の「ごより豆」を紹介する。</p> <p>⑤ 長期就業者の育成 漁協は、後継者不足の底びき網漁業者と連携をとり、ハローワークで募集した人材を補助事業も活用して育成する。</p> <p>⑥ 競争力強化型機器導入 一部漁業者の機関換装を行い、生産性の向上と燃油費の削減を図る。</p> <p>⑦ ウエルエージング岸和田推進協議会の魚食レシピの活用 引き続き、前年度までに取り組んだ魚食レシピの配布等を実施することにより、市民に魚食レシピが手渡す機会を増やし、もって魚食普及、魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑧ 地域の小学校へ拡大した魚食普及。 漁協青年部が主体となって実施している地域の小学校を対象とした漁業体験を地域全体に拡大する。また、地元テレビ局の協力を得て、当該取組や岸和田の漁業を取材・放映してもらうことで、漁業に対する市民の関心を高め、魚食普及や魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑨ 漁港での一般向け直売とインターネット販売の検討。 底びき網漁業の鮮魚や加工品を漁協と魚市場が管理運営し、休漁日に一般向けに直売する。また、インターネット販売も行う。 以上の取組により、前年より1%収入を向上させる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 船底清掃等の省燃油活動 省燃油活動推進事業を活用し、全漁業者は、年2回の船底清掃の実施を徹底し燃油消費量の削減を図る。</p> <p>② 競争力強化機器への機関換装 一部漁業者の漁船機関を競争力強化機器へ換装を行い燃油消費量の削減を図る。</p> <p>③ 共同運搬船の活用による運送経費の削減 船びき網漁業者は、引き続き平成26年度に大阪府巾着網漁協に新設されたセリへの参入により、同漁協が運用する運搬船を活用することで漁場から自船での運搬に係る燃油消費量の削減を図る。 以上の取組により、基準年に対し1%の燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 競争力強化機器等導入緊急対策事業 長期研修支援事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① イカナゴ・シラスの競争入札方式の導入 船びき網漁業者は、漁獲したイカナゴ・シラスについて、大阪府鹽巾着網漁協が実施している競争入札への出荷を継続し単価の向上を図る。</p> <p>② 新たな加工品の販売 JAいずみの道の駅愛彩ランドでの鮮魚加工品の売り上げを伸ばすため底びき網漁業者がローテーションを組み、定期的に調理実演等のイベントを開催して店頭販売する。 ごより豆他、底びきの魚の加工品を規格・商品化し定期的にシーフードショーに出展して商談を進める。地産地消品として売り出すため、商品開発部門を立ち上げ、人材を漁協青年部より選出して商品アイテムを増やす。</p> <p>④ 新規就業者の育成 漁協は、後継者不足の底びき網漁業者と連携をとり、ハローワークで募集した人材を補助事業も活用して育成する。</p> <p>⑤ ウエルエージング岸和田推進協議会の魚食レシピの活用 引き続き、前年度までに取り組んだ魚食レシピの配布等を実施することにより、市民に魚食レシピが手渡す機会を増やし、もって魚食普及、魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑥ 地域の小学校へ拡大した魚食普及。 引き続き、漁協青年部が主体となって実施している地元の小学校を対象とした漁業体験を地域全体を対象に実施し、魚食普及や魚介類の消費向上を目指す。</p> <p>⑦ 加工設備の整備点検及び拡充の検討 鮮魚加工品の鮮度保持と安定供給のため、老朽化の進む漁協施設の既存冷蔵・冷凍設備の整備を順次検討していく。 以上の取組により、基準年より10%の収入向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 船底清掃等の省燃油活動 省燃油活動推進事業を活用し、全漁業者は、年2回の船底清掃の実施を徹底し燃油消費量の削減を図る。</p> <p>② 競争力強化型機器の導入 一部漁業者の機関換装を行い、生産性の向上と燃油費の削減を図る。</p> <p>③ 共同運搬船の活用による運送経費の削減 船びき網漁業者は、引き続き平成26年度に大阪府巾着網漁協に新設されたセリへの参入により、同漁協が運用する運搬船を活用し、漁場から自船での運搬に係る燃油消費量の削減を図れる。 以上の取組により、基準年に対し1%の燃油コストの削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 競争力強化機器等導入緊急対策事業 長期研修支援事業</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは、国の支援措置に限らない。

(4) 関連機関との連携

地蔵浜地区再生委員会は、青年部が中心となり、岸和田市観光課やJAいずみのが定期的に行っているイベントに、継続的に参加・出店し地元の魚を使った料理を販売することで魚食推進する。近隣漁協と合同で行ういわしの日のイベントにも継続的に協賛し、地元の魚の販売を定着させる。また、調理時間を短縮できる加工品を開発し、魚を身近な食材にできるようにする。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成26年度 : 漁業所得 円
	目標年	平成31年度 : 漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別添をご参照ください。
-------------

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関連性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	船底清掃実施による燃費の向上。漁業コストを削減する。
競争力強化機器等導入緊急対策事業	機関換装により、生産性の向上と燃油費の削減を図る。
食育推進活動事業	漁業体験実施により、漁業・魚食に対する関心を高め、食育推進する。
漁業施設整備事業	岸和田市漁協の多種多様な鮮魚加工の鮮度保持、流通の円滑化を図る。
長期研修者支援事業	新規漁業就業者を研修、育成することにより長期就業者を確保する。

（具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性のみ記載する  
※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。